



こんにちは 日本共産党

清水とし子です

発行・日本共産党日野市議会議員 清水とし子

日野市多摩平4-1-1 (清水事務所)

メール jcpsimi@jcom.zaq.ne.jp

Facebook「清水登志子」で検索

携帯 090-6102-7555、事務所 042-582-1042

先生をふやして、子どもに向き合う時間の保障を ～現場の声に基づく「働き方改革」を～

2019年度4月から、学校における働き方改革の一環として、教職員の出退勤管理システムが実施されました。

その結果、昨年6月の教員の平日一日の平均時間外勤務時間数は、小学校は2時間6分、中学校で2時間13分であることが明らかになりました。

一か月にすると平日の平均時間外勤務時間数は、小学校で42時間16分、中学校

で44時間25分にも上ります。

文部科学省のガイドラインで定める残業の上限である一か月45時間を超える教員の割合は、小学校で約47%、中学校では58%で、さらに、過労死ラインである一か月80時間を超える教員の割合は、小学校で約12%、中学校では約21%にも上っていました(6月)。

「一年単位の変形労働時間制」は改善どころか悪化

昨日12月、一年単位の変形労働時間制を導入するための法改正が行われました。これは4月・6月の「繁忙期」に1日10時間労働まで可能とし、夏休み等の「閑散期」は勤務時間を短縮し、両方合わせて平均すれば、1日当たり8時間に収めるという制度です。

しかし、人間の体は、4月に残業を続けた疲れを8月の休暇で回復するようにはなっていません。このような制度の導入は教員の多忙化の改善にはつながらないどころか、長時間労働を固定化するものです。

また、日野市立幼稚園、小・中学校は、昨年度から夏休みを一週間短縮し、8月27日から2学期が始まるようになりました。そのため、8月23日ごろには2学期の授業や行事の準備が始まっています。

さらに、夏休みは中学校の部活動の大会、小学校では水泳大会等への引率で、超過勤務をしている教員がおり、とても「閑散期」とは言えない状況です。



日野市の目標は「過労死ライン」超え！？

日野市立小・中学校における働き方改革推進プランでは、当面の目標を「週当たり在校時間60時間を超過する教員数」をゼロとするとしています。

週当たり在校時間60時間とは、時間外勤務週21時間15分ということで、月にすると85時間になります。

これでは、文科省の定める過労死ライン「月80時間」を超えてしまいます。この

ような目標で果たして教員の長時間労働をなくすことができるでしょうか。



教員の長時間労働の解決の道は

教員の長時間労働は依然として深刻で、過労による休職や痛ましい過労死があとをたちません。最近では、教員志望の学生が減り始めています。教員の長時間労働の是正は、まさに日本の教育の現在と未来のかかった国民的課題です。

日本共産党は2018年11月、①授業数に比べあまりに少ない教員の定数増、②国・自治体、学校の双方からの不要不急の業務の削減、③「残業代ゼロ」を定めた法律を改めるなどを提案しています（「教職員を増やし、異常な長時間労働の是正を」）。

畑だより・・・

今年度の農業体験農園が終了
1月末までに作物を収穫して
畑をお返しします
その後、春に堆肥をまいて
耕運機をかけて、区割りをして
新年度の農業体験農園が始まります
今年もがんばります！

